

ま え が き

市場経済化、高度経済成長、国際化といった経済変容が顕著となった2000年以降のベトナムでは、都市部、農村部の双方で多様な経済機会が生まれた。職業や所得、権力などの基準からみて多様な層の形成が進むなか、各層のあいだでの格差・不平等に対し、人々の関心が集まりつつある。では、多様化が進むベトナム社会において、社会的上層として台頭しているのは一体どのような人たちなのか。往々にして「コネ社会」と見られがちなベトナム社会だが、そこには人々が出自や政治的コネクションに左右されることなく、自分自身の努力・能力次第で立身出世できるという希望を見いだすことはできないのだろうか。

本書はこうした問題意識のもと、2015/16年度にアジア経済研究所で実施された「2000年代ベトナムにおける新たな社会階層の台頭」研究会の最終成果である。ベトナム社会の階層構造を示す日本語・英語での既存研究がほとんどないなか、研究会1年目は社会階層分類および序列を特定するための枠組みの模索から始まった。その過程で、実はベトナム人によるベトナム語での社会階層研究が進みつつあることがわかり、ベトナム国内での社会的格差・不平等に対する関心の高まりを改めて認識することとなった。本書はベトナム人社会学者が打ち出したベトナム社会階層枠組みを起点としたうえで、その枠組みを超えて「多層化」するベトナム社会のダイナミズムを、上層・下層のそれぞれに位置づけられる職業階層の実態から描き出すことを試みた。日本語でのベトナム社会階層研究の萌芽となる本書が、ベトナム社会についてのさらなる議論のきっかけとなればと祈念している。

研究会の実施および本書の編集・出版にあたっては、多くの方々からご指導・ご協力をいただいた。研究会では、アジア経済研究所の船津鶴代氏に社

会階層論について講義をお願いし、本書の分析枠組みを構築するための土台となる知識を学ぶ機会を得た。本書の出版に先がけ、内容の一部をアジア政経学会で報告した際には、東京大学の園田茂人教授に中国との比較という視点からコメントを頂戴し、今後のベトナム社会階層研究の深化につながる多くの有益な示唆をいただいた。本書の編集作業では、アジア経済研究所・編集出版アドバイザーの勝康裕氏、同・出版企画編集課の宮坂綾子氏に大変お世話になった。これらの方々に加え、ベトナムでの現地調査で便宜を図っていただいた現地研究機関・大学や中央・地方の政府機関の方々、また聞き取り調査や質問票調査に快く応じてくださった多くの方々に、執筆者を代表して心より感謝を申し上げたい。

2017年11月

編 者